

【様式1】

令和5年度 授業改善推進プラン

東久留米市立小山小学校 第4学年

教科	学力に関する各調査に基づく児童の学習状況分析 (数値等で具体的に示す)	具体的な授業改善策及び目標値 (数値等で具体的に示す)
国語	<ul style="list-style-type: none"> 令和4年度の「東久留米市学力定着度調査」によると、4年生は「書くこと」に課題が見られる。調査の中では、この分野の得点率は47.9%であった。 普段の学習の中でも、漢字を正しく使うことや、目的に応じて文章を書くことに課題が見られる。 振り返りができない児童も多く、同調査でも「自己調整」の項目は全国の指数を下回っていた。 	<ul style="list-style-type: none"> 文章の書き方に関しては、ノートや短作文等、書く機会を増やして慣れていく。その際には、書き方のポイントを示して文章の構成を理解しやすくする。 漢字学習は授業中の練習に加え、モジュール学習や家庭学習を活用し、定着を図っていく。8割程度の児童が習った漢字をしっかりと書けるようになることを目標とする。 振り返りの視点を明確にすることで、何を理解できたのか児童が自覚できるようにさせる。
算数	<ul style="list-style-type: none"> 繰り下がりのある引き算、九九、割り算の筆算に課題が見られる。 正確に作図することに課題が見られる。「平行・垂直と四角形」では、全国正答率よりも13ポイント低かった。 	<ul style="list-style-type: none"> 九九が苦手な児童には個別で九九の復習を行い、割り算の学習につなげていく。また、日々の学習の中で、積極的に九九表を使用するようにして定着を図る。引き算が苦手な児童には、百ます計算を行うことで習熟を図る。 コンパス、分度器、三角定規を使って正確に作図をする時間を確保し、約8割の児童が正確に作図ができるようにする。
理科	<ul style="list-style-type: none"> 日常生活に関連する様々な事象、実験や予想、結果には興味があるが、基礎的な用語等の知識の定着に課題が見られる。また、実験結果から考察する場面では、自分の考えを文章で表現することに課題が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業始めの前時の振り返りと、授業終わりの本時の振り返りを充実させ、基礎的な用語が確実に覚えられるようにし、自分の考えを書く時間を多く設定する。また、ワークシートの工夫を行ったり、ICT教材を積極的に活用したりする。
特別の 道徳 教科	<ul style="list-style-type: none"> 各題材について一般的な対応を考えることはできるが、自分のこととして考えることに課題が見られる。内容項目「自然愛護」「生命尊重」では自己との関連性を見いだすことに課題が見られる。話し合い活動は活発でよく自分の意見を発表するが、相手の考えと自分の考えを比較し、自分の考えの特徴を捉えたり、自分の考えを広げたりすることに課題が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> 教材提示の際には、画像や動画等の視覚に訴える方法を増やして興味関心をもたせる。また、教科書の読み物教材のみではなく、それを補充するために児童の日常生活と結びつけるような出来事を取り上げるようにする。個人で考える→少人数で交流する→全体でまとめるといった段階を経て、児童の思考が無理なく深められるようにしていく。